

学校法人光華女子学園

2025年度事業計画書

目 次

I. 経営方針

- 1. 学園目標**
- 2. 2025年度経営方針の3本柱**
- 3. 2025年度に学園全体が取り組む重点項目**
- 4. 2025年度に各校園・事務局が挑戦すること**
- 5. 2025年度経営方針数値目標**

II. 主な事業計画の概要

(1) 大学院・大学・短期大学部

(1) 光華一貫教育の創造

- ① 建学の精神に基づく宗教教育
- ② 京都光華高等学校との高大接続
- ③ 幼・小・中・高を含む併設校への支援と連携

(2) 教育・研究の質・体制の充実

- ① 学部・学科・研究科等の将来構想
- ② 基幹研究の展開（研究力の向上、人材育成支援事業の獲得）
- ③ 学修・学生支援体制の向上
- ④ 光華独自の教育・指導法（光華メソッド）の確立
- ⑤ 他大学との連携（共同授業・研究等）の強化
- ⑥ 就職・地域連携への支援強化
- ⑦ 研究支援体制の充実
- ⑧ キャンパスのグローバル化の推進
- ⑨ 図書館・真宗文化研究所・カウンセリングセンター・人権啓発センター
光華もの忘れ・フレイルクリニックの事業計画

(3) 経営基盤の強化

- ① 志願者増につながる戦略的募集・広報活動
- ② ガバナンスコードの策定と運用
- ③ SD実施強化の検討
- ④ 大学・短大における基金の設立

(2) 高等学校・中学校

(1) 光華一貫教育の創造

- ① 建学の精神に基づく宗教教育
- ② 体験・探究学習×教科学習×Edtech
- ③ 言語活動と異文化理解教育

(2) 教育研究体制・質の向上

- ① 教育体制・運営体制、研究体制、中学校・高等学校のコース改革のあり方
- ② 働き方改革に向けて

(3) 教育研究体制・質の向上

① ハード面、ソフト面での環境整備

(4) 経営・運営基盤の強化

① 志願者増・入学者確保につながる戦略的募集・広報活動

(3) 小学校

(1) 光華一貫教育の創造

① 建学の精神に基づく宗教教育

② 体験・探究学習×教科学習×Edtech

③ 言語活動と異文化理解教育

(2) 教育研究体制・質の向上

① 教育体制・運営体制、研究体制のあり方

② 働き方改革に向けて

(3) 教育環境の整備

① ハード面、ソフト面での環境整備

(4) 経営・運営基盤の強化

① 志願者増・入学者確保につながる戦略的募集・広報活動

(4) 幼稚園

(1) 光華一貫教育の創造

① 建学の精神に基づく宗教教育

② 体験・探究型学習とEdTechを活用した新たな保育

(2) 教育研究体制・質の向上

① 魅力ある光華教育の構築

② 満3歳児保育の充実・拡大と将来構想

③ 活気ある教職員体制づくり

(3) 教育環境の充実

① ハード面、ソフト面での環境整備

(4) 経営・運営基盤の強化

① 志願者増・入園者確保につながる戦略的募集・広報活動

② 小学校への内部進学者増につなげる幼小連携の充実

(5) 学園

(1) 中期計画「The Road to 2030 – ACT2」の事業計画実施と進捗管理（KPI管理）

(2) 2025年度事業活動収支の改善

(3) 補助金・助成金と寄付金、資産運用益の獲得

(4) 事務局の組織再編と職員力の強化

(5) 学園ガバナンス・コンプライアンスの強化

(6) NPO法人（京都光華アカデミック＆スポーツクラブ）の事業展開

(7) 各種団体との連携

Ⅲ. 施設・設備等整備事業

1. 施設整備計画

2. 設備整備計画

3. ICT教育環境の整備

IV. 2025年度予算

1. 2025年度事業活動収支 当初予算

I. 経営方針

1. 学園目標（建学の精神の具現化）／

◎ 学園目標: STAY BOUBU, CO-CREAT WELL-BEING

- ① 校訓『真実心』のもと、「光華の心」を育む人間教育を行います
- ② 仏教精神を体現した人々と「共創」できる人材を養成し、Well-Being な社会創りを目指します
- ③ 地元京都に対し「Well-Being な街、京都の共創」を提案し、それを実践します。
- ④ 本学園が目指す「共創」の理念を、日本、そして世界に発信します。

2. 2025 年度経営方針の 3 本柱／

ワクワク感漲る、チャレンジする光華女子学園を目指して 2025 年度取り組む 3 本柱

- (1) 2026 年度改革で示した学園目標「Well-Being な社会を共創」を全教職員で共有し、その実施に向けた準備を整える。まずは「**京都一、Well-Being な社会を共創する学園**」を目指す
- (2) **学生生徒等の募集活動と退学者の抑制**に全力であたる
- (3) **2027 年度に資金収支差額の黒字化、2029 年度に事業活動収支経常収支差額の黒字化**に向かうための収支改善を進める（2025 年度決算及び 2026 年度予算編成において支出超過額を縮小させる）。

新入生の推移と 2026 年度の目標

校園別	2022	2023	2024	2025	2026（目標）		
					女性	男性	合計
大院専	425	393	355	363	384	65	449
短大	82	56	117	128	130	0	130
高校	139	95	87	90	95	25	120
高校（通信）	—	—	—	—	10	10	20
中学校	44	27	36	20	20	10	30
小学校	32	34	50	43	50		50
幼稚園	67	43	45	40	45		45
入学者合計	789	648	690	684	734	110	844
在籍者数	3,049	2,768	2,494	2,408	2,584		

幼稚園	2025	2026 （目標）
満 3 歳	30	45
2 歳児接続	12	20
1 歳児預かり	5	10

3.2025 年度に学園全体が取り組む重点項目

(1) 女性の学習機会の確保から共創する人材育成のステージへ。中高大短院の男女共学化と学園名、設置校名の改称の学内外への浸透

【男女共学化の目的 - Well-Being な社会共創を加速】

- ① 仏教、特に浄土真宗の教えを基本に据え、男女がともに輝く社会実現に向けた人間教育を実践
- ② 本学園の伝統を活かした光華だから創れる新たなタイプの共学校創り
- ③ 仏教精神と文理両面の知識を融合させ、社会を Well-Being に導ける人材を育成
- ④ 幼稚園から大学まで同一敷地に設置する光華ならではの「つながり、つなぎ、つないでいく」一貫教育の深化

(2) 幼稚園から大学までの一貫教育で Well-Being に向かうために必要な素養・力を養うという統一認識を醸成

- ① 実践的な宗教教育
- ② 文理両面（国語、数学、理科）の強化を特長とする理系教育（論理的思考力の獲得）
- ③ 非認知能力を高める光華 SEL 教育、伝統文化教育
- ④ グローバル時代の英語教育（日常的な会話を英語で行える力の獲得）
- ⑤ デジタルリテラシー教育（AI を活用できる力の獲得）

(3) 学習者本位で質の高い教育を提供。将来の選択肢を増やす学習者の実情に対応した教育課程と授業改善に向けたスタートアップ

(4) 京都一 Well-Being な社会の共創を目指す学園創りに向けた「チーム光華」創りとできることは何でもやる姿勢

(5) 現在の在籍者及び 2025 年度新入生が卒業時にこの学校で良かったと思って卒業してもらうための取り組みを徹底的に（特に中学、高校、大学、短期大学部）

4.2025 年度に各校園・事務局が挑戦すること／

【大学・短期大学部・大学院・専攻科】

- (1) 健康・未来創造キャンパスの充実に向けた学部学科の整備
- (2) 社会や学生の多様化を前提とした教育・研究の質の向上と学習環境の整備
- (3) 女子大をルーツとした共学校としての新たな文化の創造
- (4) 大学の有する知見を活かした一貫教育の推進（つながり、つなぎ、つないでいく一貫教育）

【幼小中高】

- (1) 幼稚園から高校までのつながり、つなぎ、つないでいく一貫教育体制の深化
- (2) 社会を共創するために必要な素養・力と大学を選択し進学できる学力の獲得を目指した教育の質の向上
- (3) 多様な学習者への対応
- (4) 女子中高をルーツとした共学校としての新たな文化の創造（中高）

【学園・事務局】

(1) 収支改善

各設置校の収支改善計画の着実な実施と進捗管理

①資金流失の抑制と中期収支計画の修正

- * 不採算事業の見直しと施設等の改修の抑制
- * 学生生徒等数減少による新たな中期収支計画の策定

②人件費の適正化

- * 学生生徒数に応じた教職員数への移行
- * 役員報酬及び校長、事務局長の年俸、教職員賞与の据え置き（2024 年度水準）

③経費の削減

- * 学生生徒数に応じた共通経費（警備、清掃、用務員、消耗品、印刷製本、保守等）の削減
- * 奨学金の抑制
- * 広報費の見直し

④予算執行・管理の厳格化

⑤経費をねん出できる外部資金（補助金等）の獲得

⑥資産運用益 1.5%

(2) 法人機能の強化

①総合学園としてのブランド「Well-Being の実現 健康・未来創造キャンパス」の構築

②私立学校法改正への対応（新たな理事会、評議員会への準備）

③理事長室による現状把握、迅速な意思決定、改善指示の強化

④メディアリレーションズの強化

⑤危機管理対策の点検と BCP の策定

(3) 人財育成

2026 年度改革を推進するための人財の育成、確保

(4) 2026 年度に向けた環境の整備

①男女共学化に向けた施設設備改修（トイレ、更衣室、防犯カメラ等）

②第一及び第二体育館への空調設備の導入

5.2025 年度経営方針数値目標／

項目			方針値	備考
財務指標	(2026 年度) 学生生徒等納付金収入額		2,953 百万円	2025 年度当初予算 2,709 百万円
	(2026 年度) 補助金収入		828 百万円以上	2025 年度当初予算 773 百万円
	資産運用収入額		120 百万円	2024 年度実績 119 百万円
	運用利回り（運用収入/金融資産）		1.50%	2024 年度見込 2.16%
	(2026 年度) 資金収支差額		▲171 百万円	2025 年度当初予算▲599 百万円
人件費指標	ST・SS 比 ※ST 比 在籍者/教員数 ※SS 比 在籍者/職員数	大学（教員）	14.1	2025 年度見込 14.3 同規模・同系統平均 20.1
		大学（職員）	20.0	2025 年度見込 19.6 同規模・同系統平均 31.5
		短大（教員）	15.5	2025 年度見込 12.2 同規模・同系統平均 10.1
		短大（職員）	38.6	2025 年度見込 30.4 同規模・同系統平均 20.9
		高校（教員）	11.2	2025 年度見込 8.9 同規模・同系統平均 14.2
		中学（教員）	15.8	2025 年度見込 13.8 同規模・同系統平均 15.6
		中高（職員）	51.1	2025 年度見込 42.8 同規模・同系統平均 99.3
		小学校（教員）	13.9	2025 年度見込 13.1 同規模・同系統平均 14.3
		幼稚園（教員）	11.5	2025 年度見込 10.5 同規模・同系統平均 13.2
学生生徒数	2026 年度	入学者数※1	844 名	2025 年度見込 684 名
		在籍者数	2,584 名	2025 年度見込 2,408 名
	内部進学率	幼→小	25%	2025 年度 20.6% (13/63)
		小→中	60%	2025 年度 53.9% (7/13)
		中→高	100%	2025 年度 87.8% (36/41)
		高→大短	50%	2025 年度 34.1% (42/124)
教育指標	退学率	大学	年間：1.9%以下	2024 年度見込 2.1%
			初年度：2.5%以下	2024 年度見込 2.1%
		短大	年間：1.6%以下	2024 年度見込 3.5%
			初年度：2.2%以下	2024 年度見込 4.2%
	就職率※2	大学	95%以上	2024 年度見込 87.3%
			DP：90%以上	2024 年度見込 95.7%
		短大	90%以上	2024 年度見込 96.0%
			DP：90%以上	2024 年度見込 93.6%
	進学率	高校	国公立 6 人 (合格者数)	2024 年度 0 人

			関関同立 15 人 (合格者数)	2024 年度 15 人
			大学進学率 (短大含む) 90%	2024 年度 82.1% ※3/12 現在
			保健医療系 医療貢献コース で 90%	2024 年度 94.4% 医療貢献コース (1 期生) し
	合格率	看護師	100%	2024 年度 % (/)
		保健師	100%	2024 年度 % (/)
		助産師	100%	2024 年度 % (/)
		管理栄養士	100%	2024 年度 % (/)
		社会福祉士	85%	2024 年度 80.0% (12/15)
		精神保健福祉士	100%	2024 年度 66.7% (2/3)
		言語聴覚士	90%	2024 年度 % (/)
		臨床心理士	100%	2024 年度 % (/)
		公認心理師	100%	2024 年度 % (/)
		公立小学校教諭※3	100%	2024 年度 100% (5/5)
		公立幼稚園教諭・保育士※3	100%	2024 年度 100% (7/7)

※ 1 : 入学者数 心理学研究科 12(12) / 看護学研究科 5(5) / 社会共創学科 87(87) / 心理学科 45 (60) / 言語聴覚専攻 20 (30) / 作業療法専攻 30 (30) / 管理栄養士専攻 70 (80) / 健康スポーツ栄養専攻 35 (40) / 看護学科 95 (95) / こども教育学科 40 (55) / 助産学専攻科 10 (10) / ライフデザイン学科 60 (60) / 歯科衛生学科 70 (70) / 高校 120 (150) / 高校 (通信) 20 (50) / 中学校 30 (50) / 小学校 50 (60) / 幼稚園 45 (70)

※ () は入学定員または募集人数

※ 2 : 就職者数 ÷ 卒業者数 (進学者・留学者等除く)

※ 3 : 採用試験合格率

※ 4 : 取得率 (最終学年卒業時点)

以上

Ⅱ. 主な事業計画の概要

1. 大学院・大学・短期大学部

(1) 光華一貫教育の創造

① 建学の精神に基づく宗教教育

本学園は「仏教精神、特に親鸞聖人があきらかにされた真宗の教えに基づく教育」を建学の精神とし、親鸞聖人の主著『教行信証』に由来する「眞實心」を校訓とする。ここには、本学園で学ぶ者が、自己を省みる「智慧」と、その智慧によって導かれる他者に対する想像力「慈悲」を、その生涯において実践する者であってほしいという願いが込められている。

本学は、このような人間形成を基盤とした高等教育機関として、次の時代を切り開く若者を育成することを使命とする。そのために2025年度は以下の項目に取り組む。

- ・小学校の「こころの授業」の教材整備
- ・建学の精神の具現化

人間教育は、一つの取り組み、一科目の授業によって達成されるものではない。建学の精神の具現化にあたっては、本学の教育訓「薫習」に示されるように、教職員自身が智慧と慈悲の実践者であることが求められる。教職員が仏教、真宗の考え方に触れられる機会を増やせるよう検討を進める。

② 京都光華高等学校との高大接続

京都光華高等学校の3コース（看護医療コース、未来創造コース、国際挑戦科）とのスムーズな教育接続を目的に連携を強化する。内部進学促進のための各種イベントについては、進路決定の早期化傾向に合わせ、高校入学後の低学年から高大接続を意識した1年生向けの職業理解を含めた説明会の実施や、1・2年生保護者向けの個別相談会を実施する。また、併設大学の学びの魅力や雰囲気をもっと身近なものとして結び付け、検討する機会や、内部進学決定者を対象とした入学前教育プログラムを各学科・専攻ごとに実施し、内部進学率の向上を図る。

③ 幼・小・中・高を含む併設校への支援と連携

2026年度実施の学園全体の改革に向け、「新しい光華」の実現のため、幼稚園から大学院まで「つながり、つなぎ、つないでいく」光華一貫教育を進化・発展させ、学園のブランド構築のために、幼・小・中・高が抱える課題に対して具体的な支援と連携を図ることで大学が牽引的な役割を果たす。

- ・「思考力・判断力・表現力」を磨き、実生活に生きる課題解決力を育成する光華メソッドを拡充する支援を行う。
- ・主体的な学びを実現させるために必要なQFT(Question Formulation Technique)理論に基づく学びに係る支援を行う。

特に光華一貫教育の軸として、SEL（非認知能力育成）の重要性を認知能力と非認知能力の関係性を明確に示し、実生活に生きる汎用的な能力の育成を推進する。その際、幼・小・中・高との往還的な研究に対する支援と連携を拡充することを通して、学園のブランドを構築する。

(2) 教育・研究の質・体制の充実

① 学部・学科・研究科等の将来構想

心理学研究科

本研究科では、こころの専門家である「公認心理師」および「臨床心理士」養成を重要課題とし、現代社会のニーズにフィットした少人数による質の高い心理臨床家の養成を行う。ケース・カンファレンスとその後のフォローアップ、

学内・学外での実習、スーパーヴィジョン等、院生一人ひとりに対する丁寧な個別指導を夏季・春季休暇期間も含めて継続的に実施する。さらに、修士1年生から国家試験対策を行うとともに、修士課程修了後も在籍できる研究生制度によって、「公認心理師」「臨床心理士」の両試験合格をサポートする（いずれも全国平均以上の合格率を目指す）。

修士論文等の研究指導については、全体（修士課程1・2年生合同）・グループ・個別といったさまざまな指導体制の充実、学会発表や研究紀要投稿等の研究活動の推奨により、研究の質と意欲の向上を図る。

看護学研究科

本研究科の特色は、「看護職として臨床で培った経験知を、看護学の理論および研究的検証を通じて探求し、社会のニーズに応じた保健・医療・福祉の向上に貢献するとともに、建学の精神に基づく思いやりの心を持って看護の発展に寄与できる人材を育成すること」にある。2025年度は、この理念を具現化するために、以下の具体的な施策を実施する。

1. 理論と実践を統合した指導力の育成

臨床で得た「経験知」をもとに研究課題に取り組むことで、教育・実践の場において、理論とエビデンスに基づいた指導力を発揮できる人材を育成する。

2. 働きながら学ぶ看護職者の支援

キャリアアップを目指す看護職者が学び続けられる環境を整備するため、授業は週2日とする。1日は対面授業を実施し、教員や院生同士のコミュニケーションを深める機会を設ける。もう1日はオンライン授業とし、柔軟な学習環境を提供することで、多様な学びのスタイルに対応する。

3. 地域貢献に向けた研究の推進

研究成果を地域社会に還元することを目指し、地域の介護保険施設や病院などの連携を強化する。

キャリア形成学部

2025年度は、これまでの3つの領域を5つのコースと専門基礎として再編した最初の年度となる。さらに、多くの外国人留学生を迎え入れ、多様性が一層広がることとなる。一方、2026年度からはキャリア形成学部キャリア形成学科を社会学部社会共創学科として発展的に改組するため、本年度は、その最終準備期間となる。具体的な準備内容は、設置申請準備をはじめ、協力企業・団体の開拓や、カリキュラム、各授業のより具体的な内容の検討などが挙げられる。

本年度は、学部改組と留学生対応という大きな変革期であるが、キャリア形成学科で学ぶ学生の教育の質保証については、個々の学生に対するより丁寧な指導をはじめ、新しいプロジェクト・プログラムを必要に応じて在学学生も参画することができるようにするなど、キャリア形成学科と社会共創学科の両学生が満足し、将来を展望することができるよう、新学部への円滑な移行に努める。



健康科学部

人々の心と体の健康づくりを根幹におき、「栄養」「運動」「心理」の側面からアプローチし、横断的な健康教育を実践する。また、大学に開設される食共創研究所と連携した産官学連携ならびに新校舎の実習室を活用した地域連携による実践的な学びを推進する。

a. 健康栄養学科 管理栄養士専攻では、管理栄養士国家試験に合格する学力を養成するとともに、より専門性に特化したメディカル栄養コース、食創造コースを開設し、即戦力として活躍できる管理栄養士を育成する。健康スポーツ栄養専攻では、栄養士をベースにスポーツマネジメントコース、食マネジメントコースを設け、中・高保健体育教諭・健康運動指導士の育成と、フードビジネス分野で活躍できる人材の育成を進める。将来的な食生命科学学科（仮）および大学院健康栄養学研究科（仮）の設置の可能性についても調査を行う。

b. 心理学科「臨床・心理カウンセリング」「子ども・発達支援」「社会・犯罪心理」の3コースにおける学びの充実を図るとともに、3つの専門職養成プログラム（「公認心理師養成」「児童系対人援助職養成」「司法・犯罪系公務員養成」）において進路につながる実践力の養成に努める。大学院への内部進学に向けた教育内容の充実を図るとともに、公認心理師資格取得に向けた支援を強化する。

看護福祉リハビリテーション学部

本学部は、医療、生活、福祉などの面から人々の健康、生活を支える専門職を育成しているが、各学科、専攻で各専門を学ぶとともに学生時代から看護職、言語聴覚士、作業療法士、社会福祉士などお互いの専門性を理解し多職種間での協働について学ぶ機会の提供についてさらなる検討を進める。例えばすでに開講されている「専門職の連携（基礎）／（応用）」は各学科の学生が交流をする機会を通して互いの専門性を理解することから始まり、多職種連携の実際を参加型で学ぶ方法の導入を具体的に検討する。すでに行われている言語聴覚専攻が授業の一環で取り組んでいる光華小学校との連携などの先行事例や併設する光華もの忘れ・フレイルクリニックを活用した認知症ケアの事例など各専門職の役割や多職種連携の学びの充実をはかることの検討を進める。また、言語聴覚専攻、作業療法専攻が、将来に向けて目指している「こども発達相談室」の開設や「児童発達支援事業所」などの設置については中長期的な目標として検討を進めていく。

各学科、専攻において仏教精神を基盤として、すでに看護学科で提供している「ホリスティック・ヘルス」などのような他大学にはない特色ある教育・研究をさらに推進する。また、本学は米国、イギリス、オーストラリア、中国、韓国などの大学との間で国際交流を進めてきたが、2025 年度より看護福祉リハビリテーション学部とシンガポール工科大学との間で学部間協定が締結され、専門職を目指す学生や教員間の国際交流を積極的に進め教育研究の質を高めるとともに国際基準の学びを提供する。

人間健康学群

健康関連企業、社会福祉法人など多様な健康関連の企業・施設等と連携し、インターンシップ研修参加を学生に推奨・指導する。専門知識・スキルの定着に向けて、健康関連、事務系、金融系など、学生の関心・進路に合う資格取得を推奨し、履修指導や授業外での学習支援を行う。学部等関係の強みを活かして、本学の健康創造キャンパスを目指して、教職員と学生の健康習慣形成を促すための取組を立案して推進する。学部等関係課程による幅広い健康関連科目を学び、健康長寿社会に貢献できる学生を育成する。

こども教育学部

本学部では、「全ての子どもの可能性を引き出し、伸ばすことのできる保育者・教育者」を養成する。具体的な人物像を知育・徳育・体育の3観点から明確に示し、併設校園との連携を活かした系統的なカリキュラムを通して育成する。具体的な取組は以下のとおり。

- ・「思考力・判断力・表現力」を磨き、実生活に生きる課題解決力を育成する光華メソッドを拡充する支援を行う。
- ・主体的な学びを実現させるために必要なQFT(Question Formulation Technique)理論に基づく学びに係る支援を行う。

・光華一貫教育の軸として、SEL（非認知能力育成）の重要性を認知能力と非認知能力の関係性を明確に示し、実生活に生きる汎用的な能力の育成を推進する。

研究の質・体制の充実においては、引き続き光華一貫教育の推進と充実の為に学園において牽引的な役割を果たす。研究が学園のブランド形成につながるよう、併設校園との連携体制を強化する。

短期大学部

教育改革の推進において、歯科衛生学科では設置計画に基づく教育環境の安定的な提供を目指し、共学化に向けた体制整備を行う。2027年4月開設予定の歯科衛生学専攻科に向けた必要なカリキュラム等の調査を開始し、歯科衛生領域の研究を推進し、設置の環境を整える。京都光華女子大学の各学科との連携を図り、光華EDUALプログラムを推進する。

ライフデザイン学科では、（１）共学化に向けてコンピテンシー育成をより重視したカリキュラム改革とその体制整備、（２）学生の主体的学びの活性化のため、①産官学／地域連携授業の導入などのアクティブ・ラーニングの導入、②短大フォーラムをはじめとする短大間連携の取組の強化、③学生と教職員の共同による正課外活動の充実を行い、（３）以上の教育改革による学修成果の可視化に取り組む。

募集広報活動では、入学・広報センターと短大教員が連携して高校訪問や出張講義等の広報活動を行う。また、昨年同様、総合型選抜の事前相談を早期に開始し、「面談」「体験授業」を実施して9月以降の出願増につなげる。光華高等学校に対しては、ビュッフェ講座や医療人ゼミを通して短期大学部での学びの理解を進め、内部進学率の増加を目指す。さらに「光華ワクワク×健やかフェス2025」でのブース開設を通して地域での認知度向上及び地域連携に貢献する。

助産学専攻科

助産師教育を取り巻く社会環境の変化、とりわけ少子化傾向やハイリスク分娩の増加などの要因により、教育の質を保証するための一層の努力が必要となる。社会的なニーズに応えられる助産師を養成するため、講義では周産期のハイリスク、無痛分娩に関する内容の充実を図る。さらに救命・救急に対応できる診断能力、実践力育成のための演習科目を設け、新生児蘇生法、母体救急の認定資格取得を目指す。臨地実習での実践能力獲得のために、引き続き実習施設の確保、拡充に努めたい。

また、地域での幅広い対象に向けた母子保健活動や助産師の多様な働き方について学ぶ機会を設け、社会の変化に対応できる助産師を育てたい。引き続き助産師国家試験の合格率100%を維持するために、個別対策指導の充実、e-Learningの有効活用を図っていく。

これらの取り組み、教育内容をHP、OCで積極的に発信し、一定の入試倍率を維持し、さらに受験生に選ばれる専攻科を目指す。

リベラルアーツセンター

本学のリベラルアーツ教育は仏教精神に基づく教育という建学の精神と校訓「真実心」（慈悲心）を指標として、現代社会で能力を発揮する有為な人材の育成を目標としている。非認知能力の養成をキーワードにして、仏教が大切にしている自己を見つめる力、自己肯定感や向上心を高める教育、特色教育である伝統文化が基本とする相手を思いやる心、感謝の心を醸成する教育を推進する。カリキュラムは未来創造の基盤となる自然科学、人文を適切に配置し、非認知能力の理解と養成を視点として開設科目の整備を行う。とくに重視されている数理・データサイエンス分野では、光華EDUALプログラム（文科省認定、数理・データサイエンス・AI教育プログラム）の充実と教育方法の開発を継続する。これらの教育効果の検証は、リーディングスキルテスト(RST)の結果と組み合わせるなどして行い、教育力向上に活用する。

② 基幹研究の展開（研究力の向上、人材育成支援事業の獲得）

「健康・未来創造キャンパス」の実現と、本学のブランド構築につながる研究力の向上・社会実装を目指して産

官学連携や学内外の共同研究を推進する。基幹研究においては「よりそい」を科学するというキーコンセプトのもとに展開していく。2025年に開催される大阪・関西万博TEAM EXPOパビリオンにおいては、「食のバリアフリー化の技術開発と普及促進」と題して機能性と洋菓子や嚥下調整食品を出展する。同じく関西パビリオン（京都ブース）にてウィークリーテーマ「食の未来をつむぐ」においては本学の諸活動を紹介し、ブランドの構築に繋げる。また、けいはんな学研都市にて開催されるけいはんな万博2025やフードテックエキスポにおいてもその成果を発表する。

③ 学修・学生支援体制の向上

学修支援では、①学生が主体的に授業に参加し、能動的に学ぶための授業運営や授業方法について見直しを行う。②各学科・センターとの連携を強化し学生への履修指導をより丁寧に行い、修業年限内に卒業できる学生の増加および退学防止に努める。③学習ステーションおよび各学科コモンズの利用者増・満足度向上に向けた学習環境づくりを計画する。以上により、学生サポート体制の更なる充実を目指す。

教職・保育職支援においては、教員及び公立保育職採用試験対策とモチベーションを持続させる体制を整備する。関係学科と組織的、横断的に対策出来る体制のもと、ボランティア活動やキャリアイベントなどを通して、知識や技能等の大学での学びと現場での実践とを往還することで教育的体験の拡大と深化を図り、教職や保育職志望者への確実な進路保障を目指す。

本学では2025年度を迎えるにあたり、留学生の受け入れが増加する。文化や生活習慣など多様な学生支援がこれまで以上に必要となる。そのため、障害学生や家庭環境の厳しい学生なども含め、教職員には「学生に寄り添う支援」がより一層求められる。そこでこれまで構築してきたガイドラインや支援体制を全学的に浸透させ、学内の連携強化に向けて、情報共有や学生対応に適切に取り組み、退学者抑制にも注力し充実した学生支援を目指す。

④ 光華独自の教育・指導法（光華メソッド）の確立

光華メソッドとは、社会で生きて働く「思考力・判断力・表現力等」を学習者が「主体的・対話的で深い学び」を通して身に付け、さらに拡充するための教育手法である。

光華メソッドの特色としては、（1）仏教教育に基づく教育、（2）教職員からの薫習による教育、（3）「知・情・意」による3側面からの教育と定義している。「知」とは専門およびリベラルアーツ教育、アクティブ・ラーニングを通じた専門知と社会を見る目の育成を意味し、「情」とはピアサポーター・クラスアドバイザー制度や種々の学生支援体制による感情の安定を意味し、「意」とは学習ステーション、コモンズ、図書館などの学びの場を通じたGRIT（やり抜く力）とMindsetの転換（自己肯定力）の育成を意味し、仏教精神を根底にした教職員の日々の活動から学生は薫習を受けながら、知・情・意を養う。取り組みについては、近年の学生の傾向について非認知能力と認知能力の関係に焦点をあてた分析をするともに、内容や成果について議論し、各学科・専攻のFD活動に反映させ、充実を図っていく。

⑤ 他大学との連携（共同授業・研究等）の強化

他大学との連携により、それぞれの教育研究資源を結集し、共同でより魅力ある教育研究・人材育成を実現することを目的に、多様な教育プログラムを提供できるよう検討する。教育課程上の連携としては、大阪大谷大学薬学部と本学看護福祉リハビリテーション学部・健康科学部ならびに短期大学部歯科衛生学科との間で「専門職の連携（基礎）」の授業を共同開講し、多職種連携教育を推進する。また、大学コンソーシアム京都と連携した単位互換の実施のほか、2025年に開催される大阪・関西万博では、本学と関西大学、甲南女子大学、森之宮医療大学、武庫川女子大学の学生による大学連携プロジェクトを展開し、さまざまなテーマに沿ったチャレンジ内容を大学合同TEAM EXPO 2025テーマセッションにて発表する。

⑥ 就職・地域連携への支援強化

就職支援センターでは、就職支援委員会と連携し、学科のDPや養成人材像に沿う進路決定を基本方針に、「就職率100%」・「就職満足度95%以上」・「第1希望での就職割合80%以上」を目標としている。就職ガイダンスや学内合同企業説明会、OG 懇談会開催等の全体的な支援の他、専門分野に特化した支援の充実に注

力していく。

就職活動を通じて、学生が成長し自信をもって社会に出ていけるよう、就職支援センターの利用強化を図り、学生一人ひとりの興味・関心、ライフプラン等を加味しながら、働くことの意味や目指す進路の方向性を低年次から一緒に考え支援していく。

地域連携推進センターでは、「健康・未来創造キャンパス」の実現を目指し、地元京都を中心に自治体・周辺地域・地元企業との連携を深め、持続可能な地域との共生・共創を推進する拠点となることを目指す。今年度は「EXPO 2025 大阪・関西万博」への参加もあり、本学の研究成果を国内外に広く発信し知名度・認知度の向上につなげる。嚥下調整食や機能性食料・洋菓子（希少糖羊羹、キハダのカヌレ等）をはじめとした研究成果についても地域交流の場を通して社会実装を進めていく。これまで力を入れてきた地域の方々との交流については、第3回を迎える「KOKAワクワク健やかフェス」や「こども食堂」に加え、小中高のグラウンドを活用して学園全体で地域のワクワクを盛り上げる新イベント「光華キッズなフェスタ」、認知症・フレイル予防啓発活動や公開講座など、様々なイベントを企画・実施する。昨年度から発足した学生のボランティア組織「光華リエゾンクラブ」についても幅広い活動の場を通して、学生が成長を実感できる場を提供していく。

⑦ 研究支援体制の充実

- ・研究基盤充実のため、科研費や私立大学改革総合支援事業、国の研究開発プロジェクトなどの競争的外部資金の採択率の拡大を目指す。具体的には、特別研究経費による基盤研究支援、外部資金獲得に向けたインセンティブ制度や学内説明会、研究アドバイザーによる勉強会を積極的に実施する。
- ・2025年4月に開設される食共創研究所における産学連携研究を支援するための体制を整える。
- ・高等教育における非認知能力を高めるSEL（Social and Emotional Learning）の研究開発を支援する。
- ・京都光華もの忘れ・フレイルクリニックを地域の健康増進や地域医療の発展のための教育研究の実践の場として活用する体制を整える。
- ・研究倫理委員会にて2024年度に整備した研究倫理審査申請書・計画書等の作成を支援し、適正で迅速な審査の実施をサポートする。
- ・研究成果の発信力向上のため、学術論文、研究レポート、レビューなどの作成と投稿を支援し、学術刊行物出版の助成にも力を入れる。
- ・Well-Beingの実現に向けた本学の基幹研究を支援し、嚥下調整食や菓子や機能性食品の開発、KOKA癒しカフェ（認知症カフェ）など社会実装を見据えた研究を支援する。
- ・共創パートナーとして参加する大阪・関西万博では、本学の研究成果を効果的に発信し、本学のブランド力を高めるための支援を行う。
- ・教員が研究に専念できる期間を確保するための制度導入に向けて検討を行う。

⑧ キャンパスのグローバル化の推進

国際交流センターでは、2024年度の成果を踏まえ、さらに「キャンパスのグローバル化」を発展させていく。在学生の国際交流においては、海外短期研修プログラムをより充実させるとともに、長期・セメスター留学の機会を拡大するため、新規協定校の開拓を進める。また、今後は海外の高校等も視野に入れ、親睦交流事業および教育的観点から積極的に交流事業を展開し、学生の教育・研究に還元する。

外国人留学生の受け入れにおいては、日本語学校との継続的なネットワーク構築や多様な受け入れ方法の開拓を引き続き実施していく。あわせて、入学後の日本語サポートや授業支援、大学生活のサポートの充実を図る。特に2025年度は、難民高等教育プログラムのパートナー校として難民学生1名の受け入れを開始することから、教育・生活面での支援体制を整備する。

これらの施策を通じて、多様な文化的背景を持つ学生が集い、互いに刺激し合う「環境型」と「経験型」のグローバル化を実現し、グローバル社会で活躍できる人材育成を目指す。

⑨図書館・真宗文化研究所・カウンセリングセンター・人権啓発センター・光華もの忘れ・フレイルクリニックの事業計画 図書館

本学の建学の精神である仏教の思いやりの心に基づき、社会で共創する人材育成の一端を担うため、学術情報基盤の役割を果たす。

図書・雑誌、データベース、電子書籍など様々な形態で、リベラルアーツや専門分野、作業療法専攻（2024年度設置）、社会学部（2026年度設置構想中）の分野の資料の充実を図る。集中できる学習空間とリラックスできる空間づくりを行い、居心地の良い環境を提供する。適切な情報収集や活用する能力を高めるために授業と連携した利用教育を行い、自学自習を身に付けることを促進する。長年収集してきた絵本を活用し、認定絵本士をPRする企画を実施したり、ラーニングコミュニティ「学Booo」での活動を通して、学生の達成感を養い、学習意欲につなげる。地域の貢献の一環として、オープンライブラリー、社会人利用など、生涯学習を支援する拠点となるように努める。

真宗文化研究所

真宗文化研究所は建学の精神と校訓「眞實心」に基づき、真に生命力をもつ真宗文化の本質、本学園の宗教教育の在り方、現代社会の諸問題への対応等を考究し、学内外へ啓発、訴求することを目的としている。

この目的を達成するために、（１）建学の精神の具現化に向けた宗教教育の在り方について、学園内各設置校と連携し探求を進める。（２）「宗教講座」や「聖蹟巡拝」を実施し、学生や教職員が仏教・真宗への理解を深める機会とする。（３）委嘱研究員制度に基づき研究員を学内外から公募により委嘱し、その研究成果を公開する。また、特別研究員、並びに客員研究員制度などの研究員制度を生かし、研究機関としての機能を高める。（４）研究年報『真宗文化』、および「宗教講座」の講話録である『眞實心』を発行する。これらの刊行物を広く社会に公開するため本学リポジトリと本研究所ホームページに掲載する。

カウンセリングセンター

カウンセリングセンターは地域に開かれた「こころの相談室」として、「子どもと女性の心に寄り添う」ことをモットーに、心理的援助を必要とされる方の気持ちに寄り添ったカウンセリング（個別の心理相談）を行う。また、本センターは大学院（心理学研究科臨床心理学専攻）附属の実習施設として、「公認心理師」および「臨床心理士」養成課程における重要な役割を担う。

カウンセリング等の相談業務に加えて、本センターが実施している親子教室では、就学前の子どもと保護者のふれあい遊びを行う「ひかりっこ＊くらぶ」と、子育て相談の「こもれびスペース」により、子育て支援への社会的ニーズに応える。その他、「京都光華女子大学カウンセリングセンター研究紀要」を2025年度も引き続き編集・発行する。

人権啓発センター

学生、教職員の一人ひとりが心理的、身体的に安全かつ快適な環境で勉学や研究に専念し、全ての人の人権が尊重され、お互いが相手の立場を重んじることができる良好なキャンパス環境を維持するため人権に関する啓発活動に取り組む。主に学生を対象とした「人権映画鑑賞会」「人権講演会」では、身近に起こりうる人権問題、あるいは、社会的な人権問題への認識等に着眼したテーマ選定を行っていく。教員対象の「人権研修会」については、教育活動に有益なテーマを宗教・人権・真宗文化委員会と協議のうえで設定し実施する。これらの啓発活動においては、教員・職員へも参加促進を行い、FD・SPにも活用できるようにする。

また、セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメント等全てのハラスメント防止となるよう、引き続き、啓発冊子「ハラスメントのないキャンパス・ライフ」の配付を行う。

光華もの忘れ・フレイルクリニック

2025年度もこれまで行ってきた、認知腫初期集中支援チーム、地域包括支援センターとの協業、講演会の開催、ケースカンファレンスの参加を引き続き行う。昨年度は、初期集中チーム、地域包括からの紹介患者が増え、集患に寄与したため、この傾向を維持する。さらに、近隣の中規模から大規模総合病院との協力体制を強化し、合同カンファレンスの開催などを模索する。学生の利用については、健康診断、ワクチン接種を言語聴覚専攻の生徒については2024年度から開始したが、2025年度についても継続し、他専攻、他学科についても順次拡大していく。授業での利用については、これまで実習の場としての利用を中心として行っていたが、多職種連携の学びの場、あるいは新たに設置される食共創研究所との協力体制についても、徐々に確立していく。

(3) 経営基盤の強化

① 志願者増につながる戦略的募集・広報活動

2026年度入学生向けの学生募集戦略において、「対面募集活動重視」「広報内容の魅力化を追求」「高大接続・連携の強化」「専願者獲得のための入試戦略」の4点を活動方針と定め、入学志願者の底上げおよび偏差値向上、全学科・専攻での入学定員充足を目指す。広報活動においては、『STAY BONBU、CO-CREATE WELL-BEING.』のキャッチコピーの基、男女の隔たりなく、人々に寄り添う人材育成拠点として社会の要請に応える大学を掲げ、本学の目指す方向性について、Webを中心とした媒体を効果的に活用しつつ、集中的に交通広告等を掲出し、知名度・認知度の向上に努める。さらに各学科・専攻における競合校分析に基づき、抽出された本学ならではの魅力を、学生による大阪関西万博やその他の社会実装活動などを通して具体性を持って発信することで、京阪神地区における唯一無二のポジションを確立する。

募集活動においては「対面営業活動重視」を最重要施策とし、学園改革の丁寧な説明を中心に、現場ニーズに即した高校訪問を早期から仕掛け、特に探究活動等での高大連携を積極的に提案し、昨年同様、新規連携校を増やす。また、ガイダンスで直接接した高校生を一人でも多くオープンキャンパス来校へつなげ、共学化や新設社会学部を前面に出し、体験型イベントや在学生との交流をメインに高校生にキャンパスライフへの期待感・ワクワク感を醸成するためのプログラムで着実に志願へとつなげる。そして、早期から受験生によりそう入試制度を設計し、専願受験者の獲得に注力する。さらに、外国人学生の獲得においても入試制度の整備や日本語学校訪問や連携など募集施策を強化し、入学生の獲得を目指す。

② ガバナンスコードの策定と運用

私立大学として主体性を重んじ公共性を高める自律的なガバナンスを確保し、より強固な経営基盤に支えられ、私立大学の教育・研究・社会貢献の機能の最大化を図り、社会的責任を全うするため、ガバナンスコードを策定してホームページに公開している。今後、令和5年に改正された私立学校法に沿ったガバナンス改革ならびに学部・学科の改組、新設による組織変更等を受けて内容の改定を行っていく。なお、これを指針とした大学運営やその適合状況については、学園監事による監査および中長期計画の進捗度の点検や大学の自己点検・評価の中で点検されている。監査報告書および大学基準協会による認証評価の結果については、それぞれ運用が適切であること、大学基準協会の基準に適合しているとの評価（令和4年度認定）を得ており、今後も適切な運用と点検評価・改善に努める。

③ SD実施強化の検討

「学校法人光華女子学園SD規定」に則り、教職員のモチベーション向上やコンプライアンスを徹底することを目的に、教職員を対象に階層別・分野別にSD研修を実施している。学内においては、新規採用事務研修をはじめ、全職員対象の夏季職員全体研修、管理職を対象とした管理職研修のほか、教職員を対象とした防災研修、人権研修会、研究倫理教育、情報セキュリティ教育を実施して研究倫理の徹底、公金意識の徹底、ハラスメントの

防止、個人情報の保護と情報セキュリティの向上に努めている。また、学外研修として、本山研修（東本願寺）、大学SDフォーラム研修（日本能率協会）へ参加している。今後は、SDの捉え方を拡大し、教職協働で大学を運営するために必要な資質向上を図るための方策も検討していく。

④ 大学・短大における基金の設立

- ・個人、企業、財団等からの寄付金の受け入れ体制を整え、研究資金の受け皿を拡充する。
- ・2025年4月より開設される食共創センターにおける共同研究先企業からの共同研究費の受け入れ体制を整備する。
- ・卒業生や学園関係者のネットワークを活用した寄付金制度を整え、使途に応じた寄付の仕組みを作る。同時に、大学の教育・研究活動、大学発セミナーやイベントのタイムリーな情報発信を行い、同窓会、地域企業や各種団体との連携をより強化し、教育・研究支援における寄付の重要性について理解いただくよう努める。これには、大学ホームページやSNSを積極的に活用し、魅力的で分かりやすい情報を発信する。加えて、同窓会の総会や支部会、大学イベントへの教職員の参加を促し、在学生と同窓生や企業人との懇談会、調査研究やビジネスにおける教員と企業との連携などの共同事業を推進する。

2. 高等学校・中学校

(1) 光華一貫教育の創造

① 建学の精神に基づく宗教教育

本校では、建学の精神のもと、校訓である「真実心」を具現化すべく“心の教育”を教育目標の筆頭に掲げ、教職員及び生徒が実感できる具体的な教育活動を行っている。2022年度から教育内容の抜本的見直しを行ってきたが、仏教教育を基盤に据えての「光華の心」＝「心の教育」の育成に力を入れることは変えてはこなかった。特に2021年度から実施している毎週水曜のzoomによる朝の礼拝は、宗教教育による生徒の心の育成に大きな影響力を与えている。来年度以降も、生徒や教員による感話の内容をより一層充実させ、生徒が豊かな心をもって学校生活を送ることができるようにする。



校内では年間に様々な宗教行事が営まれるが、そのどれもが大変厳かで、生徒は単に仏教の教えを学ぶだけでなく、自らの生き方を自然と見つめ直すことができる時間となっている。特に2024年度は京都仏教青年会連盟の当番校として灌仏会・成道会・涅槃会のつどいを本校で行った。生徒主体で進行したそのつどいは、他校の生徒や引率の先生方から高い評価を頂くこともできた。これからも宗教行事を更に充実発展させ、生徒が自らの生き方をじっくりと見つめられるようにしていきたい。

② 体験・探究学習×教科学習×Edtech

本校では、2020年度入学生から個人デバイス（surfacego）を必須化し、全教育活動において利用を促進している。2025年度においては、全生徒が個人のデバイスを持って3年目となる。現在、生徒は授業場面でデバイスを自在に操り、学習を効率化しその効果を高めている。また、主体的学習・双方向授業ツールとして、「Meta Moji」を活用して、授業等でのICTを使った双方向型授業を実践している。全世界的なICT教育の普及と相まって、本校の授業場面での自然なICT機器活用の様子も急速に進み、生徒の操作能力の習得の速さとその活用力は予想をはるかに上回っている。

また、2022年度からの構造改革の目玉の一つである「体験型、探究型、協働型学習」は3年を経て各授業の中に定着し、生徒の思考力・判断力・表現力を高めつつある。探究活動において実施してきた「京都+アドベンチャー」では、今年度も2年生1チームが全国大会に出場した。

また、習熟度別・補完学習を目的にデジタル教材「Crassi」を導入・運用してきたが、更に、「Atama+」を導入して自主学習を促進し、生徒一人ひとりに基礎学力の目標数値を与え、学力向上を図るとともにPDCAサイクルによる管理の徹底を行っていく。

更に、Study HallやEnglish Commonsでの取組や放課後のビュッフェ講座の内容を見直し、修正を行いながら京都光華女子大学との連携はより密にし、魅力的で実践的な取組を増やすとともに大学での学びを先取りして生徒の満足度向上を図るとともに、各コースの充実につなげていく。

③言語活動と異文化理解教育

2023年度以来、「対話」を重視した授業の創造をテーマに掲げて授業研究を行ってきた。英語の時間を中心に、授業の中で生徒同士の「対話」の場面が増えたばかりか、Zoomを使って遠隔地の生徒とのやり取りも盛んに行われるようになった。とりわけ、高校2年の研修旅行と中学3年の修学旅行で、夫々台湾やオーストラリアの学校と交流が計画されたことで、事前学習として行ったZoomによる交流会は画期的であった。英語の力はまだまだ稚拙であるものの、何とか意思疎通をしようと奮闘する姿にこの教育活動の大きな意義を感じた。



全校集会の場面で生徒に意見や感想、決意を述べさせる取組も定着した。今年度は、1学期に行った人権学習でも生徒に発言の場面を多く設けたが、大勢の生徒の前でも自分の意見や考えを堂々と発表する生徒が増えた。

また、国際挑戦科を中心に、海外の出来事や地球規模の問題に目を向けた取組を実践してきた。生徒たちは、特に女性の地位の問題や環境問題には関心が高く、主体的積極的に学習に向けて取り組むことができた。今後は、これらの実践や取組を国際挑戦科以外にも広げるとともに、「京＋アド」のテーマとするなど、京都光華の強みとして学校外にも上手く広報していく必要があると感じている。

(2) 教育研究体制・質の向上

① 教育体制・運営体制、研究体制、中学校・高等学校のコース改革のあり方

2022年度から実施してきた学校改革は、従来型学校運営からの脱却を目指し、パラダイムシフトで学校改革（小中高構造改革）を推進することであった。構造改革の中心は、具体的な教育の中身、コース、募集広報、人事・組織を抜本的に見直し、新コースの中身のブラッシュアップに努めてきた。

今回のコース等の変更は、高校中学校現場の考えだけでなく、広く外部の意見を取り入れたものとなった。2025年度は新体制のもと、「今回は何としても成果を出さなければならない」との不退転の決意をもって全教職員が教育活動に取り組んだ。この1年間の取組を検証し直し、真摯に反省もして次年度に活かしていく。

2026年度は、本校にとって開校以来の大改革の年である。管理職会が中心になって入学広報部と協力にタッグを組んで取り組む。具体的な目標数値等を設定し、協働して目標実現に取り組むとともに組織を円滑に運営するため、PDCAサイクルによる管理を徹底する。さらに、全教職員参加型運営の観点から教職員の前向きな意見を一層吸い上げて実現していく。

②働き方改革に向けて

働き方改革の推進については、重要案件としてこれを断行していく。職員室の完全閉室時間については、19時30分を徹底する。また、今年度は変型労働時間制が定着し、無駄な勤務についてはほぼなくすることができた。今後は、授業時数の確保、学力の保障などの観点を見失うことなく「時差勤務」の導入を検討していきたい。

また、本校教育の重要な柱に部活動があるが、その指導に要する時間については、外注化をスタートさせたことで学校業務と切り離して考えることができています。引き続き労働環境の改善に努めるが、単なる労働時間の短縮では

なく時間を有効に使い、業務に充実感が感じられるような業務分担と組織体制の検討を更に推進する。

(3) 教育研究の充実

①ハード面、ソフト面での環境整備

教育環境の充実に向けて、学校業務のICT化を推進すべく、2020年度入学生から教育プラットフォーム「Classi」を導入しているが、来年度においても、活用範囲をさらに拡大させて円滑な運営・実施を行っていく。また、探究学習の推進については、現実社会と連動しながら「生きる力」を育む教育プログラム「クエストエデュケーション」を引き続き活用し、探究学習の推進とともに教員の授業サポートを実現する。また、校内全館



Wi-Fi化に伴い生徒への個人デバイスの活用幅を広げるとともに光風館図書館の改修を行ったことで、図書館教育の充実と探究教育の充実や理科室の専門別教室を活用し、より高度な専門的な教育活動を行う。

これまで研究してきた本学園のタスク・フォースである「英語教育」「宗教教育」「教育手法」に新しく「理数教育」を加えて4つの柱で強化していく。「英語教育」については、高校3年生卒業までの間に全生徒が日常会話を英語のできるレベルを目指す。「宗教教育」については、自らの生き方をより豊かにするための実践的な学習を目指し、「理数教育」においては、大学と協力して理科好きの生徒を育てると共に、この教育を通じて論理的思考力を育てる。そして、これらに「SEL（Social and Emotional Learning）教育」と「探究活動」「伝統文化教育」を加えて本校教育の特徴として強く打ち出していく。

光風館の一室にHealing Placeを設置している。ここは、教室に入りにくい生徒や誰かに話を聞いてもらえれば落ち着ける生徒など、日々の学校生活で「困り」を抱えた生徒が“ほっ”と一息できる場所として確保できた。現在も様々な生徒が様々な方法で活用しているが、来年度は、支援員やSCの有効な活用の仕方の中にHealing Placeの使い方も加えて考えていく。

(4) 経営・運営基盤の強化

①志願者増・入学者確保につながる戦略的募集・広報活動

2023年度に入学者数が激減したことを受けて、2024年度には募集活動を入試広報部任せにするのではなく、教職員全員で学習塾廻りをするなど新たな取組を開始した。特に「接触者数」を増やすことに注力して取り組んできたが、2025年度入学予定者数も多く増やすことはできなかった。

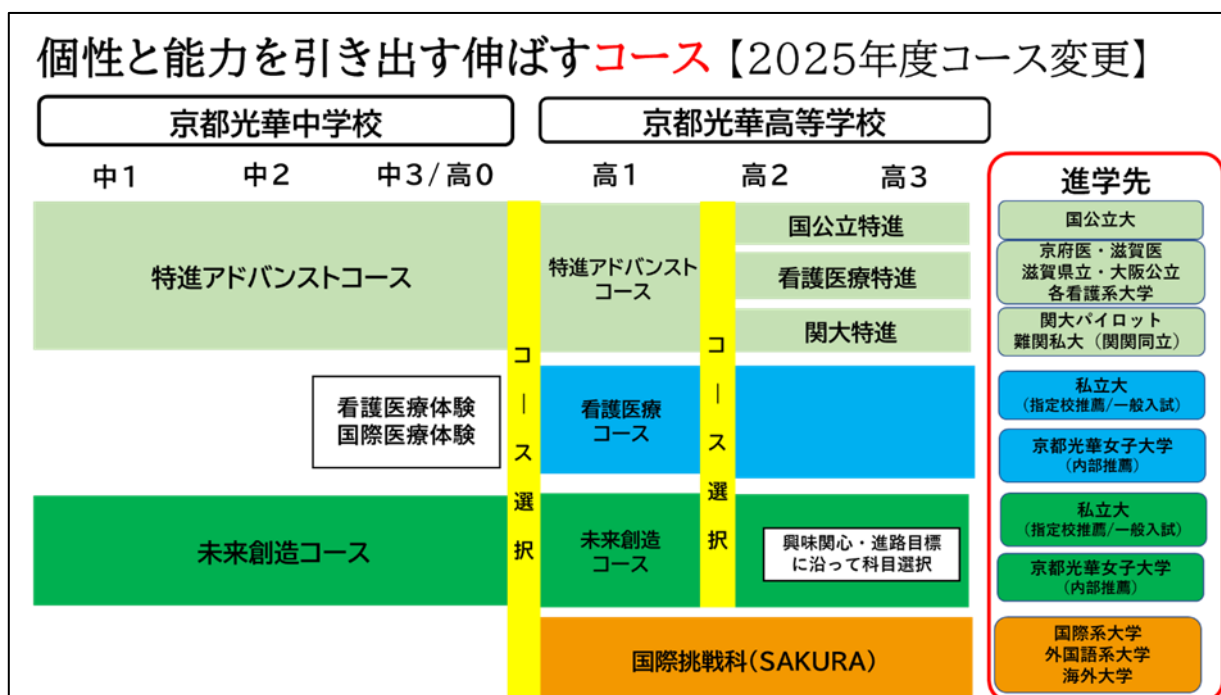
次年度は2026年度の男女共学化に向けて募集活動についても大変重要な一年になることから、管理職会が入試広報部と一緒に募集戦略を見直し、活動を点検しながら3月中旬から動き出す。

○「募集戦略の見直しとその確認」

「Well-Beingな社会の共創をする人材の育成」というテーマを教職員全員が共有して学習塾と中学校廻りを実行する。そのために新しく取り組む教育は以下のとおりであることも全員で確認する。

- ・心を育てる「宗教教育」 ・論理的思考力育成のための「理数系教育」
- ・日常会話ができる力を目指す「英語教育」 ・幼稚園から大学まで一貫して取り組む「SEL教育」
- ・SEL教育の一環としての「伝統文化教育」 ・生活をより豊かにする「ICT教育」

○2025年度に向けた中高コース体制



このコース体制を売りにして募集活動を行う。特に看護医療コースについては、看護師が女性の仕事という意識を変え、医療現場への更なる男性の進出を目指す意味でもこのコースへの男子生徒の募集に力を入れる。併せて、これまで“英語の好きな女子”が集まるイメージが強かった国際挑戦科には、英語を使って海外で働きたい男子生徒を集めるように募集活動を行う。

○通信制課程(RENハイスクール)開設に向けた準備

現在、高校の通信（単位）制課程開設に向けて準備を進めているところである。このことで、中学生の多様な進路希望に応え、幅広い教育のあり方を研究し実現することで学校をよりよく変化させていく。

○校内イベント（ex:OS、NOS、部活体験会、入試説明会）→“光華 Fun”にして逃がさない。

2026年度から男女共学化や今後、通信制課程を開設することを強くPRして募集活動に活かす。単に人数を集めるということではなく、「Well-Beingな社会の共創」を担う人材を育成するという目標を社会に広めていく広報活動を行う。

○中学校入試に重点を置いた募集

2024年度は、中高一貫の特進アドバンスコースを復活させたことをPRするなどして特に中学校入試に力を入れて取り組んだ。次年度以降も元気のよい中学生を確保することで校内をより活性化する。明るく元気のよい中学生たちを高校進学後も学年の中核に据えることで学校全体に活気を生ませたい。中学入試は学習塾頼みの部分が多いため、「より質の高い学習塾訪問」を行って本校教育の目的と目指す生徒像を伝え、生徒に本校を紹介してもらえようとする。私立中学校ならではの特徴を明確化することが「より質の高い学習塾訪問」につながる。その特徴とは、特進（「特進アドバンスコース」）の設置による国公立大学や有名私立大学を目指す層の生徒と、公立校では難しかった部活動で自己実現を目指す層の生徒を確保し、それぞれが互いをリスペクトしながら自己の目標に向かって頑張る学校だということである。

○中高収支改善計画の着実な実施と進捗

補助金等の外部資金の獲得や教職員数の適正化による人件費の削減等、来年度以降も計画に従って収支改善に努めていく。また、印刷費や光熱費などの常的な経常費の削減も全教職員が心がける。

○海外に開かれた学校を目指して

2024年度は11月6日にカナダのRigina大学との間で大学指定校協定を締結することができ、奨学金を得てその大学への進学を決めた生徒がいる。一方で、京都光華女子大学の協力を得ながら海外からの留学生を受け入れることも引き続き行っている。今後は、姉妹校関係にある台湾の台南女子高級学校やオーストラリアのSan Sisto Callegeとの交流をより積極的に行い、互いの学校の生徒を受け入れるような仕組みを創っていききたい。学校に外国人生徒が多く在籍することで英語を話す機会は多くなり、自然にそれが身に付く。また、外国の多様な文化を受け入れそれに学ぶ姿勢をもつことで、学校が国際化し新しい京都光華のイメージが創れる。そうすることで本校に興味をもってくれる児童生徒が増えると考えている。



3. 小学校

(1) 光華一貫教育の創造

① 建学の精神に基づく宗教教育

・「光華の心」(向上心・潤いの心・感謝の心)を育む人間教育の実践

日々の学校生活の中で、自分自身を見つめ、他者への思いやりを育む。校訓「真実心」の具現化を図る。

・真宗文化研究所との連携した実践的な宗教教育の展開

大学の真宗文化研究所と協力し、年齢に応じた仏教の教えを取り入れた教育プログラムを実施。形式的な知識ではなく、日常生活に活かせる智慧を育む。

・自己への問いかけを通じた豊かな人間性と倫理的感性の育成

自分自身と向き合う内省の機会を通して、他者も同じ悩みや喜びを持つ存在であることへの気づきを促す。

・SEL(非認知能力)を重視した人格形成

・小・中・高・大の一貫した宗教教育体制の確立

② 体験・探究学習×教科学習×Edtech

1. 「STEAM and 教育」と「デジタル科」を柱とした次世代教育の実践

「STEAM and 教育」

従来のSTEAM教育に本校独自の「and」を加え、問いを立てて学ぶ楽しさと生涯学び続け、人と関わり協働する姿勢を育てる非認知能力の育成を重視する。

・Science: 「なぜ」を見つけて考える探究的な学習

自然現象や社会事象に対する好奇心から問いを立て、探究する活動を通して科学的思考を育成。

・Technology: 必要な情報の収集・表現・発信

デジタルツールを活用して情報を適切に扱い、自分の考えを効果的に表現・発信する力を養う。

・Engineering: ものの構造を調べ、制作する活動

身の回りのものの仕組みを理解し、創意工夫して新しいものを作り出す体験を提供

・Arts: 美しく豊かな表現活動

芸術的感性と表現力を養うとともに、幅広い教養(リベラルアーツ)を身につける機会を創出

・Mathematics: 数理的な分析と問題解決

数学的な思考を用いて問題を分析し、論理的に解決する力を育成。

「デジタル科」

ICTを道具として適切に活用し、創造的に問題解決できる力を育成する独自教科

・プログラミング的思考力の育成

論理的思考を通じて問題を分解し、解決の手順を考える能力を育成。単なるコーディング教育ではなく思考力を重視。

・ICTを活用した教科横断的な学習支援

各教科の学びをICTで補強し、より深い理解や表現を可能にする支援体制を構築。

・情報活用能力の育成（相手意識、メディア理解、批判的思考、目的に応じた活用、責任ある発信）

デジタル社会で必要となる情報リテラシーを体系的に育成。相手を意識した情報発信や情報の批判的な読解力を重視。

2. AIドリルを活用した個別最適化学習の推進

3. 理系教育の強化（「理系Junior」プログラムの展開）

4. 教科担当制による質の高い授業の実現

5. 「光華スタンダード」に基づく授業改善の継続

③ 言語活動と異文化理解教育

1. 英語教育の充実（Koka Junior English）

英語を使って実際にコミュニケーションを取る楽しさを感じられる教育を提供。単なる英語学習ではなく、言語を通じた文化理解と自己表現力の育成を目指す。

・LBS（Learning by Storytelling）とTPR（Total Physical Response）教育メソッドの活用

英語の絵本を活用した学習と、身体を動かしながら英語を習得する手法を組み合わせ実施。楽しみ自然に英語を身につける環境を創出。

・ICTを活用した海外交流（ハワイ・台湾等）

オンラインでの海外の学校との交流により、実践的な英語使用の機会を提供し、異文化への理解を深める。

・「Koka Junior English」による一貫した英語教育の展開

英語を単独の教科としてだけでなく、他の教科学習と結びつけて実施することで、実用的な英語力を育成。

・中学英語科教員との連携による授業実施

小中の教員が協働して授業交流することで、段階的かつ一貫した英語教育を提供。中学への円滑な接続を図る。

2. 国際理解教育の推進

仏教精神に基づく多様性の尊重を基盤に、国や文化の枠を超えた理解と協働の姿勢を育成。

・国際交流プログラム（All English Camp、海外学校との交流等）の充実

・グローバルな視点での探究活動

世界共通の課題に目を向け、持続可能な社会づくりに貢献する意識を育てる。

（2）教育研究体制・質の向上

① 教育体制・運営体制、研究体制のあり方

1. 幼・小・中・高・大の連携強化による研究組織の統合と協同研究による光華独自の教育手法の確立

2. 光華SEL教育の実践

社会性と情動の成長を目的とした教育プログラムを展開。認知能力と非認知能力をスパイラルに育成することで、Well-Beingな社会を共創できる人材の育成を目指す。

- ・非認知能力の育成（自己肯定感、自己管理、コミュニケーション力、他者への思いやり）

学業成績だけでなく、生涯にわたって重要となる社会的・情緒的能力を意識的・計画的に育成。自分の価値を認め、感情をコントロールし、他者と協働する力を養う。

- ・校内研究授業と研修会の定期的実施

SEL教育についての理解を深め、日常の教育活動全般に取り入れるための研修を実施。全教職SEL教育の視点を持って指導できる体制を構築。

- ・効果検証の実施（児童・保護者アンケート、行動観察記録）

SEL教育の成果を定期的に検証し、PDCAサイクルで改善。数値化しにくい非認知能力の育成状況を多角的に評価する。

- ・西日本研究発表会に向けた学園研究発表会の実施。

3. 小中連携の強化

同一敷地内にある強みを活かし、小中の段差をなくし、12年間の一貫した成長を支援する体制を構築。

- ・教員間の相互理解と連携促進

小学校と中学校の教員が互いの教育内容や方法を理解し、情報共有や合同研修を実施

- ・12年一貫教育を見据えた教育課程の構築

小中高の教育内容を系統的に捉え、重複や隔たりを解消した効果的なカリキュラムを開発。

4. 西日本研究発表会に向けた学園研究発表会の実施。

② 働き方改革に向けて

1. 業務の効率化の推進

教員が児童と向き合う時間を確保するため、業務の見直しと効率化を図る。

- ・ICTツールの活用による校務の効率化

成績処理、文書作成、情報共有などにICTを活用し、作業時間を短縮。クラウドサービスの活用で場所を選ばない業務環境を整備。

- ・会議のスリム化

会議の目的明確化、資料の事前配布、時間制限の設定などで効率的な会議運営を実現。

- ・教材の開発と共有化

教員間で教材やワークシートを共有・蓄積するシステムを構築し、教材準備の負担を軽減。

2. 教職員の専門性向上

働き方改革と同時に教育の質を高めるため、教職員の専門性向上に投資。

- ・計画的な自主研修機会の確保

校内外の研修に参加できる時間的余裕を作り、最新の教育理論や実践を学ぶ機会を提供。

- ・校内研究体制の充実

教員が互いに学び合い、高め合う校内研究の仕組みを充実させ、チーム学校としての教育力を向上。

（3）教育環境の充実

① ハード面、ソフト面での環境整備

1. ICT環境の整備

- ・各自の端末の効果的活用

児童一人ひとりが持つタブレット端末を各教科の学習や探究活動で活用し、個別最適な学びと協働的な学びを実現。

- ・デジタル教材の充実

児童の理解度や興味に応じた学習を可能にするデジタル教材を充実させ、個別学習や発展学習に活用。

- ・教室の ICT 環境整備と活用

2. アフタースクールの拡充

共働き家庭の増加に対応し、放課後の安全な居場所づくりと多様な学びの機会を提供。

- ・プログラムの多様化（主体的・創造的な学び）

児童の興味関心に応じた多彩なプログラムを提供し、個性や才能を伸ばす機会を創出。

- ・質の高い講師陣の確保

各分野の専門性を持つ講師を招き、特色ある活動を展開。大学生や卒業生の活用

- ・安全・安心な居場所づくり

保護者が安心して子どもを預けられる環境を整備し、学校生活の延長として充実した時間を提供。

災害や不審者対策を含め、児童が安心して学べる安全な環境づくりを推進。

3. 施設設備の改善（学習教室の確保・教材の充実）

学習効果を高め、児童の安全を確保するための施設設備の整備を計画的に実施。

4. 「ハイクラス講座」の拡充（理科の導入）

5. 校庭開放や健康フェスタ等の実施による地域連携

（４）経営・運営基盤の強化

① 志願者増・入学者確保につながる戦略的募集・広報活動

1. 教育内容の可視化

本校の特色ある教育を保護者や地域社会に分かりやすく伝え、教育活動の価値を理解してもらう取り組みを強化。

- ・SEL教育の成果発信

非認知能力の育成に関する取り組みとその成果を具体的な事例を交えて発信。数値では表しにくい成長を可視化する工夫

- ・STEAM and教育の取り組み紹介と成果発信

探究的な学びの過程や成果物を展示・公開し、21世紀型スキルの育成状況を発信

- ・英語教育プログラムの周知と実践

実践的な英語力育成に向けた特色あるプログラムの内容と成果を広く紹介。

2. 広報活動の強化

- ・Webサイトの充実とSNSの活用

最新の教育活動や児童の様子を定期的に更新し、リアルタイムな情報発信を強化。検索しやすい構造と見やすいデザインを重視。

- ・入試イベントの見直しと充実

授業公開や体験活動を取り入れた魅力的な説明会を実施。個別相談の機会も充実させ、保護者の要望に丁寧に対応。

- ・新しいスタイルのオープンキャンパス・説明会の実施

- ・幼稚園や保育園の塾訪問の戦略的实施

4. 幼稚園

(1) 光華一貫教育の創造

①建学の精神に基づく宗教教育

- ・「向上心・潤いの心・感謝の心」という「光華の心」について全教職員で再度確認をし、自らの言動について意識を高めることを通して、子どもたちにも「光華の心」を育てる。
- ・日々の保育の中で、一人一人の子どもに寄り添い、思いやりのある温かい心を育み、遊びを通して心身共に調和のとれた子どもの育成に取り組む。
- ・登降園時の親鸞童形像への挨拶や降園時の保育室でのお参りなど、子どもたちが気持ちを込めて行えるようになるために教職員もモデルとなるべく気持ちを込めた挨拶に取り組む。
- ・子どもの成長の姿を発信したり、学園の宗教行事や宗教教育の内容を発信したりすることを通して、保護者にも宗教教育の理解の推進と浸透を図る。

②体験・探究型学習とEdTechを活用した新たな保育

- ・子どもたちが日々、自らワクワク・ドキドキと心を動かし、五感を通して様々な体験を重ね、遊びを通して学ぶことが大切である。そのためには「やりたい」「不思議」「おもしろそう」と心を動かし遊びたくなる環境を整えていく。
- ・幼児期の体験・探究型の学びは、「自ら学び自ら考える力」を培い、小学校以降の学びの基礎となる重要なものである。本物体験とICT活用により、子どもたちの経験や遊びを広げ、一人一人が意欲的に関わり、試したり、考えたり、話し合ったりすることのできる保育に取り組んでいく。

(2) 教育研究体制・質の向上

①魅力ある光華教育の構築

- ・子どもたち一人一人が意欲的に環境に関わり試行錯誤しながら遊び込む中で、成功体験や失敗体験を重ねやり切った満足感や達成感を味わい、また友達と一緒にする楽しさや面白さ、協力することの大切さを感じることでできる日々を保証していく。
- ・教育目標「主体性と社会性の基礎を身につけ、学びに向かう意欲を備えた子どもを育てる」実現のために、2024年度に続き、子どもたちが見通しをもって主体的に遊びを進めていくことを大切にしたいと考える。環境や保育者の関わり等を検討しながら個々の遊びから、クラス・学年全体の遊びそして異年齢の遊びが充実するようにする。
- ・光華幼稚園ならではのサークルタイムやJolly dayの取組を充実し、SEL教育を推進する。自己を発揮しながら相手の思いにも気づき、折り合いをつけることができる等、自己発揮と自己抑制の調和がとれる子どもを育て、協調性やコミュニケーション能力、最後まで責任をもってやり抜く力を育てていく。

②満3歳児保育の充実・拡大と将来構想

- ・2歳児接続保育をさらに進め、1歳6ヶ月児から預かることで、満3歳児のさらなる拡充を図り、子育て支援の充実と共に5年間を見通した幼稚園教育課程を作成し、5年保育を確立する。
- ・1歳児保育の実績をつくり、保護者にも認定こども園への理解・協力を得られるように準備を進め、2026年度の認定こども園移行を目指す。

③活気ある教職員体制づくり

- ・一人一人の教員が、自分の力を発揮して保育に取り組むと共に、「やりがい」や「働きがい」が感じられる職場体制づくりで、教員の達成感が得られるようにし、意欲的に保育に取り組めるようにする。お互いに支え合い、高め合い、認め合える教職員体制を構築する。また、下記の3点に対して重要ポイントとして取り組むことで、一人一人の教員のスキルアップを図る。

＊ 園務分掌を明確にする。

＊ 教務、学年主任を中核としたチーム保育・異年齢保育の実践

* 向上を図るための自己目標やチーム目標の設定

(3) 教育環境の充実

①ハード面、ソフト面での環境整備

- ・子どもたちが主体的に遊ぶための保育環境について、常に話し合いを重ねることで共通理解を図り、保育環境の充実に努める。環境がマンネリになっていないか、整理整頓ができているか等、基本的なことから見直していくことを常に心掛けるようにする。
- ・修繕や改善の必要な箇所については、学園の担当部署に連携を取りながら改善に取り組んでいく。
- ・ICTを積極的に活用することで、在園児はもちろん、未就園児にもわかりやすい幼稚園教育の動画をスピーディーに配信し、幼稚園教育の可視化を推進する。
- ・同じ学園内の教育施設である幼・小・中・高・大・短である強みを生かし、これまで以上に教員同士、園児・児童・生徒・学生との連携を図り、人的な環境を最大限に活用することで、幼稚園教育の充実を図る。

(4) 経営・運営基盤の強化

①志願者増・入学者確保につながる戦略的募集・広報活動

昨今の未就園児の状況は、保護者の就労率も高まり保育所志向が強いと思われる。光華幼稚園においても就労者の方に幼稚園を選択してもらえるように、手だてを強化してきているところではあるが、なかなか浸透しない現状がある。保護者のニーズをしっかりとらえ、確実な入室・入園につなげるような取組を今後も進めていく。

○全教職員による募集活動の実践

- ・児童館や小規模保育所の担当を決め、定期的に訪問することで顔の見える関係を築き、幼稚園教育の理解を推進する。

○親子保育・ベビークラス保育の充実

- ・親子保育・ベビークラスとも入室・入園に直結する大事な取組であり、参加者が継続して来園したくなる仕組みをつくり定期的な利用から入室につなげる。
- ・一人一人丁寧に聞き取りを行うことで、入室につなげていく。

○就労家庭への保育サービスの充実

- ・代休日の預かり保育の実施を始め、幼稚園行事の見直しを行い、就労者に優しい幼稚園を目指す。

これらに焦点をあてて、全員で取組むことにより志願者増・入学者確保につなげていく。また広報活動においては、Instagramの細やかな発信を始め、チラシの配布等の取組と共に学園運営部と連携を取り、より効果的な広報活動についても検討を重ねる。

②小学校への内部進学者増につなげる幼小連携の充実

- ・全教職員が、光華幼・小・中・高一貫教育の内容を熟知することで、保護者に一貫教育の重要性を語れるようにする。
- ・連携主任教員を中心に、小学校との交流を年間計画に位置づけをし、互恵性のある連携とする。特に園児にとっては小学校に親しみをもち、小学生との交流活動を楽しみにすることができるようになることは大変意義深いと考える。交流の場に保護者にも参加してもらうことで、取組の実態を理解していただき、内部進学につながるようにする。
- ・同じ学園内であるからこそその強みを生かし、「非認知能力」をキーワードに幼稚園教育から小学校教育に見通しをもって取組み、光華幼稚園と光華小学校ならではの接続期充実のためのカリキュラムの作成を行い、大学にも関わってもらうことで理論づけられたより確かなものとしていく。

6. 学園事務局

(1) 中期計画「The Road to 2030-ACT2」の事業計画実施と進捗管理（KPI管理）

2025年度は、「光華ビジョン2030」実現に向けた中期計画「The Road to 2030 -ACT2」の初年度となる。中期計画ACT1はスタート直後に発生した新型コロナウイルス感染症拡大による影響を受け、初年度から計画に対する乖離が発生。全校園においての入学減少も大きな影響を与え、財政面での悪化が顕著となった。和順館（小学校）や光耀館（大学）の新築などの大規模投資を実施した。ACT2においては、学園改革に合わせ、しっかりとした土台の再構築を図り、学園経営改善に向けた再スタートの年度として位置づける。2025年度は在籍者の減少と大規模投資による借入金、新学科設置等にもなう先行投資による、収支ズレから資金収支差額が依然厳しい状況ではあるが、適正な予算措置と執行により改善をはかり、2027年度には黒字化が実現できる目途を立てる年度としたい。中期計画KPI（Key Performance Indicator 重要業務評価指標）についても再設定し、管理フローの改善も図ることとする。2025年度の主な取り組みとしては、2026年度学園改革案の沿った活動に重点を置き、特に、大学・短期大学部・大学院および中学校・高等学校の男女共学化に向けた準備をしっかりと行う。「Well-Beingな社会を創る」「つながり・つなぎ・つないでいく学園一貫教育」の実現に向けて、教職員一同が経営健全化に向けて取り組む。

(2) 2025年度事業活動収支の改善

学校法人は、絶えず教育の質の向上に取り組んでいくため、財務体質の強化を図り、健全経営を実現し、施設設備への適切な投資とFD・SDの積極的な取り組みを進めなければならない。本学園はこれまで各設置校園の教育の質の向上を図るため、時代のニーズに合致した教育改革を展開してきた。しかしながら、事業活動収支は2018年度および2019年度の黒字決算以降、2020年度～23年度は新型コロナ感染症拡大防止対策や新棟建設に伴う支出から、赤字決算となった。2024年度においては、各校園における入学者の落ち込みによる収入の減少から、赤字決算となっている。2025年度も引き続き、各学科（大短）の収支改善計画に沿った管理の徹底、各校園在籍者数に応じた教職員配置の適正化により人件費（労務費）の抑制及び予算管理の厳格化、各種支出抑制策の断行など、今後安定的な黒字経営が構築できる収支改善策を図ることとする。2026年度改革を控え、各設置校園における募集強化は必須であり、全教職員一丸となって取り組むこととする。また学生生徒納付金および経常費補助金等の収入に見合った支出抑制策として、人員の適正化を図る必要がある。

(3) 補助金・助成金と寄付金、資産運用益の獲得

採択型事業補助金等、補助金の採択に向けた調査・方策を機動的に発動し、申請することで大型の競争的補助金の獲得を図る。2025年度においては、採択された改革総合支援事業補助金を有効活用することとしたい。経常費（運営費）補助金、特別補助金においても、各校園・部署間での連携を強化し、補助金情報を的確に把握することで確実な補助金の獲得に努める。

光華ビジョン2030の実現を目指し、施設整備事業やICT促進、DX推進、各種教育改革などを目的に、卒業生や保護者、関連企業等有縁者の方々や教職員に対し、「華の煌き募金」を継続的に募る。また、資産運用については、その目標額を1.50%以上とし、リスクを抑えた安定性の高い運用を実施済みである。今後新たな投資を行う場合は、引き続き、運用資産ポートフォリオを策定したうえでの投資を基本とする。

(4) 事務局の組織再編と職員力の強化

学生、生徒、児童そして園児のために何が大切かを考える組織として、各部署のミッションを明確化し、その達成状況を管理する体制を構築する。特に人口減少による学生生徒等確保の重要性の観点から、各校園が掲げる入学人数目標達成のため、メリハリをつけた募集広報活動が行える組織構造にする。幼少期から成人を迎えるまでの各校園における学修支援や生活支援へのサポート、安心・安全であるべき教育現場を維持向上させるため、

大学事務局の組織の再編を実施する。また、私学法改正に伴う学園ガバナンス強化対応として、新たにC R管理室（コンプライアンスリスク管理室）を設置する。大学には、食と健康そして地域や企業との協働研究などを行う「食共創研究所」を設置する。

2025大阪・関西万博にも出展が決定しており、「京都光華の研究力と地域連携」を、広く内外に発信していきたい。

職員能力開発については、各所属目標と個人目標を経営・運営方針に沿ってそれぞれ再考する。そのうえで、成果を出すための徹底した進捗管理体制のもとPDCAサイクルを徹底する。個人に対してはその結果を業績評価制度（MBO）にて適正に評価すること、また職員研修制度の体型（全体研修・資格別研修・学外研修等）と内容を充実させること、双方により職員のパフォーマンスの向上を図る。

すべての業務遂行や目標達成に向け、教職員間、組織間、学校間におけるコミュニケーションを強化し、教職員の一体感を醸成する。

（５） 学園ガバナンス・コンプライアンスの強化

私学法改正に伴う、内部統制システムの整備については、2024年12月の役員会にてコンプライアンス関係の規程やCR管理室の設置について承認され、自然災害（地震・火災・水害・豪雨等）や感染症に迅速に対応できる組織・体制を明文化した。今後は、適正な備蓄品を確保、全学的な防災訓練の企画・実施など、危機管理体制のさらなる改善強化を図る。

また、学園内にある諸規程の整備と危機管理に対する体制とマニュアルの整備については、2025年3月の役員会にて承認されたが、各種ハラスメントの防止、個人情報保護・管理等法令改正内容に即した各学園諸制度・諸規定の整備・改定を随時行っていく必要がある。私学法改正にはすべて対応することができたが、今後はその運用を着実に行うことで、法人のガバナンス、コンプライアンス強化に努めていく。

（６） NPO法人（京都光華アカデミック＆スポーツクラブ）の事業展開

京都光華アカデミック＆スポーツクラブは、「専門指導者の下、学術・芸術・文化・スポーツ活動並びに幼稚園・初等・中等・高等教育における課外活動の指導」を目的としている。特にK+RunningClubの発展充実および幼小中高大の放課後活動への指導者派遣を行うことや、地域住民も巻き込んだ活動を展開していく。今後は、幅広い分野での指導を視野にいれた活動を行い、経営基盤の強化を図り、地域のプラットフォーム校として貢献することを目指して取り組む。

（７） 各種団体との連携

持続的な光華ファンとして支援いただけるよう、有縁者である同窓生や旧教職員との連携強化を図るための組織体制を確立し、交流の機会を増やす。そのため、本学の取り組み（学園行事・公開講座・講演会等）を定期的にHPに掲載する。また、各校園の保護者会組織との連携強化も図る。

Ⅲ. 施設・設備等整備事業

1. 施設整備計画

建物定期点検指摘事項改修
建物漏水箇所整備
建物外壁赤外線検査（北・南校地全域）
共学化に伴う男性用トイレ、更衣室の整備
コンビニ業態変更に伴う施設改修工事

2. 設備整備計画

建築設備点検指摘事項改修
電気設備点検指摘事項改修
給排水設備老朽箇所更新（各種ポンプ・グリストラップ 等）
空調機器老朽箇所更新
エレベーター設備定期更新
自動ドア設備定期更新
消防用設備定期更新（消火ポンプ 等）
照明器具のLED化
第1体育館 空調設置工事
第2体育館 空調設置工事
体育館 照明器具のLED化と耐震化

3. ICT教育環境の整備

「建学の精神」に基づき、社会で共創する人材の育成目指し、また、学習者本位で質の高い教育の提供を目的として、ICT 教育環境の維持、整備を行う。また、年々巧妙化するサイバー攻撃のリスクを軽減するため、一定のセキュリティレベルを維持する。Wi-Fi アクセスポイントの一部リプレイス、各校園の Web サーバの移行、また、Windows10 の端末を全てリプレイスする。ウイルス対策はもとより、電子メール標的型攻撃対策や BCP 対策、ランサムウェア攻撃対策としてクラウドバックアップシステムを運用する。更に添付ファイル自動暗号化システムの実装を検討し、毎年実施している情報セキュリティ意識向上の取組のフォロー強化体制を整え、学園内全体の情報セキュリティインシデント発生の抑制を目指す。Web 授業環境としてこれまで提供の Zoom から Teams に移行し、マニュアル整備などによるサポートを行う。そのほか、補助金など外部資金の獲得を図るなど教育環境の維持・整備に努める。

IV. 2025年度予算

2025年度事業活動収支予算

(単位:百万円)

科 目			2025年度 予算 (A)	2024年度 予算 (B)	差 (A)-(B)
教育活動収支	事業活動収入	学生生徒等納付金	2,710	2,722	▲ 12
		手数料	30	27	3
		寄付金	17	17	0
		経常費等補助金	773	769	4
		付随事業収入	57	54	3
		雑収入	116	46	70
	教育活動収入計		3,703	3,635	68
	事業活動支出	人件費	2,734	2,703	31
		教育研究経費	1,626	1,629	▲ 3
		管理経費	298	246	52
徴収不能額等		3	3	0	
教育活動支出計		4,661	4,581	80	
教育活動収支差額			▲ 958	▲ 946	▲ 12
教育活動外収支	事業収入動	受取利息・配当金	120	118	2
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	120	118	2
	事業支出動	借入金等利息	22	24	▲ 2
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	22	24	▲ 2
教育活動外収支差額			98	94	4
経常収支差額			▲ 860	▲ 852	▲ 8
特別収支	事業収入動	資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	15	14	1
		特別収入計	15	14	1
	事業支出動	資産処分差額	3	3	0
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	3	3	0
特別収支差額			12	11	1
予備費			20	20	0
基本金組入前当年度収支差額			▲ 868	▲ 861	▲ 7
基本金組入額			383	380	3
当年度収支差額			▲ 1,251	▲ 1,241	▲ 10
事業活動収入			3,838	3,767	71
事業活動支出			4,706	4,628	78
事業活動収支差額比率			-22.6%	-22.9%	0.3%
人件費比率			71.5%	72.0%	-0.5%